

第2学年 社会科学習指導案

日 時：平成17年 9月14日(木) 5校時

学 級：2年C組(男子14名 女子14名 計28名)

場 所：2年C組教室 指導者： 中軽米 幸 治

1 単元名

第5章 近代の日本と世界 第3節 立憲政治の始まりと日清・日露戦争 『条約改正』

2 単元について

(1) 教材観

前単元では、「新政府は諸改革を通して、短期間に近代国家の基礎を整えたこと」や「欧米列強がアジアの植民地化を進める中で、独立を保ち近代国家を形成していった政府や人々の努力」、「文明開化・殖産興業政策を通して、人々の生活の大きな変化に気づくこと」について、学習した。

これを受けて、本単元では、新政府が急速に改革し創りあげた近代国家「日本」が条約改正や戦争を通して、国際的地位を高めていった過程と背景を学習する。

本単元の具体的ねらいは、「急速に近代化を進めたわが国の国際的地位の向上と大陸との関係を、自由民権運動と大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正を通して理解させること」、「政府の富国強兵・殖産興業政策の下で進展したわが国の近代産業が産業革命を経て発展したことや当時の国民生活の変化について理解させること」、「この時期に近代文化が形成され、都市を中心に文化の大衆化が進んだことに気づかせること」としている。

これら3つのねらいを達成させることにより、重要な出来事についての知識を身につけ、日本の近代化と国際的な地位の向上、日本を取り巻く国際情勢との関連を意識してとらえる能力を育てるとともに、多面的・多角的に考える能力を育てたい。

(2) 生徒観

昨年度学習定着度状況調査の分析結果

観 点	社 会 科		歴 史 的 分 野	
	県正答率	本校正答率	県正答率	本校正答率
社会的な思考・判断	61%	54%	57%	49%
資料活用の技能・表現	63%	58%	70%	57%
社会的事象についての知識・理解	66%	62%	64%	54%
全 体	64%	60%	64%	54%

昨年度の学習定着度状況調査の分析結果から、地理的分野と比較すると歴史的分野を苦手としている生徒が多いことが分かる。本校の社会科の正答率と歴史的分野の正答率を比較した場合、「社会的事象について知識・理解」の差が大きくなっているといえる。また、「資料活用の技能・表現」についても、県正答率と比較して大きく落ち込んでいることが分かる。

ア 社会的事象への関心・意欲・態度

社会科は得意ではないが、授業への取り組みやニュースの話題への反応から、徐々に社会科に対する関心が高まってきている。授業中は、積極的に発言したいと思っている生徒が多い。その反面、不得意であるという意識が強く、学習への意欲的な取り組みを継続できない生徒もみられる。

イ 社会的な思考・判断

社会的事象の意義や特色，相互の関連から多面的・多角的に考察し，判断できる生徒が少ない。また，思考し判断した内容を適切にまとめる力が弱い。

ウ 資料活用の技能・表現

グラフや表などの資料を適切に読み取ったり，表現したりする技能は徐々にではあるが高まってきている。しかし，資料を数的に処理する技能，いくつかの資料を比較する技能，より適切な資料を収集・選択する技能については，まだまだ課題が残る。

エ 社会的事象についての知識・理解

2年生になったの各種テストの結果を見ると，約8割の生徒は「十分満足できる」「おおよそ満足できる」状況にある。定着が不十分な生徒に共通することは，定着させるために繰り返して学習することが不十分であることである。そこで，授業時間内における知識・理解部分の基礎・基本の定着のくり返しに努めている。

(3) 指導観

この単元で取り扱う期間は，およそ1870年～1910年の約40年間にもわたり，大きな出来事が多くある。よって，重点をしぼって内容を取り上げるとともに，年表や地図にまとめる学習やできるだけ多くの資料にふれさせる学習を取り入れてしっかりとらえさせたい。また，出来事の背景を意識させながら学習を進めることにより，生徒の思考力・判断力を育てたい。

そして，この単元のさまざまな出来事を世界とのつながり，歴史の流れの中でとらえさせるようにしていきたい。

3 単元目標

既急速に近代化を進めたわが国の国際的地位の向上と大陸との関係に関心を持ち，意欲的に追究しようとする。 【社会的事象への関心・意欲・態度】

既自由民権運動と大日本帝国憲法の制定，日清・日露戦争，条約改正を通して，政治，外交の流れとその特色を多面的・多角的に考察できる。 【社会的な思考・判断】

既わが国の近代産業の発展やそのなかの国民生活の変化，文化に関する資料を適切に選択し，考察した過程や結果をまとめられる。 【資料活用の技能・表現】

既急速に近代化を進めたわが国の国際的地位の向上と大陸との関係を，当時の国際情勢を背景に理解できる。 【社会的事象についての知識・理解】

4 単元の評価規準(10時間扱い・本時4/10)

時間	学 習 内 容	評 価 規 準			
		社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
1	国会開設を旨として1 (P149～150) 既自由民権運動 既西南戦争 既国会期成同盟	自由民権運動に関心を持ち，人々の心情や状況を捉えようとする。	自由民権運動の旨したもの考えることができる。		
2	国会開設を旨として2 (P150～151) 既自由党 既立憲改進黨			憲法案や自由民権運動のおもな事件について，資料を探し調べることができる。	自由民権運動の広がりのおもな事件について，資料を探し調べることができる。
3	立憲政治の始まり (P154～155) 既伊藤博文 既内閣制度 既大日本帝国憲法 既帝国議会 既教育勅語		さまざまな制度が整備され，日本がどのような国を旨していたか考えることができる。		日本の立憲政治の特色を理解することができる。
4 本時	条約改正 (P156)		条約改正の必要性とそれに取り組んだ人々の努力について考えることができる。		条約改正の過程と日本を取り巻く世界情勢を理解することができる。

時間	学 習 内 容	評 価 規 準			
		社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
5	朝鮮をめぐる戦い (P157) 既日清戦争 既三国干渉	日清戦争がどのような戦争であったかを意欲的に調べようとする。		日清戦争の原因や結果をわかりやすくまとめることができる。	
6	激動する東アジア情勢 (P158～160) 既帝国主義 既義和団事件 既日英同盟 既日露戦争 既ポーツマス条約		戦争前後の様子や戦争の結果から、日露戦争の意義を考えることができる。		日露戦争の原因と結果、その後の日本内外の情勢を理解することができる。
7	地図から消えた韓国 (P162～163) 既韓国併合 既孫文 既中華民国 既辛亥革命 既袁世凱		韓国併合により、日本が朝鮮の主権を著しく侵害したことについて考えることができる。		韓国の植民地化の進展や中国国内の様子を理解することができる。
8	各地に工場が (P164～165) 既産業革命 既八幡製鉄所		軽工業から重工業に発展していったことと人々の生活の変化を関連づけて考えることができる。	資料から工業の移り変わりや生活の変化を読み取ることができる。	
9	糸を引くのも国のため (P166～167) 既労働争議	さまざまな運動が起きていた原因について調べようとする。	社会問題の発生を急激な資本主義の発展と関連づけて、その理由を考えることができる。		
10	広がる新しい生活 (P168～170) 既文明開化		明治の文化の特色を、社会や時代背景と関連づけて考えることができる。		近代文化が形成されたことを学問や科学技術で国際的な業績が生まれたことから理解することができる。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

既条約改正の必要性とそれに取り組んだ人々の努力について考えることができる。【社会的な思考・判断】
既条約改正の過程と日本を取り巻く世界情勢を理解することができる。【社会的事象についての知識・理解】

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

評 価 の 観 点	具 体 の 評 価 規 準		
	A:十分満足できる	B:おおむね満足できる	C:努力を要する生徒への手だて
【社会的な思考・判断】 条約改正の必要性とそれに取り組んだ人々の努力について考えることができる。	不平等条約の内容ばかりでなく、国際社会における他国との関係にもふれることができる。	不平等条約の内容に関連させて、書くことができる。	幕末に結んだ条約やノルマントン号事件について注目させ、本時の内容を振り返らせる。
【社会的事象についての知識・理解】 条約改正の過程と日本を取り巻く世界情勢を理解することができる。	「条約改正への道」の表に記入し、その内容を正しく理解できている。	板書や資料をもとにして、「条約改正への道」の表の記入をすることができる。	板書や資料を示し、「条約改正への道」の表の記入を助ける。

(3) 本時の展開

段階	学 習 活 動	支 援 ・ 評 価	教 具 ・ 留 意 事 項
導入 15分	<p>基礎確認テスト 前時までに学習した重要語句の確認(3分)</p> <p>(1) 「ノルマントン号事件」の内容を調べ、「領事裁判の制度」によって日本が不利であったことを確認する。</p> <p>(2) 幕末に結んだ不平等条約が原因であることを確認し、その領事裁判の制度が1894年に撤廃されたことを知る。</p>	<p>前時までに学習した事項の確認をする。</p> <p>この事件を契機に領事裁判権の撤廃を求める国民の要求が高まったことに気づかせる。</p> <p>「領事裁判権を認めること」、「関税自主権がないこと」が、外国にとって有利であることを復習させ、それにも関わらず条約改正に応じたことを気づかせ、課題追求の動機付けとする。</p>	<p>既学習プリント</p> <p>既資料(プロジェクター) ノルマントン号事件</p>
	<p>学習課題 なぜ条約改正は成功したのか。</p>		
展開 25分	<p>(3) 学習課題についての予想を立てる。</p> <p>(4) 岩倉使節団による条約改正の予備交渉について確認する。</p> <p>(5) 井上馨による欧化政策について考える。</p> <p>(6) 学習課題である「なぜ条約改正が成功したのか」について、再度考える。</p> <p>(7) 教科書を読んで、今日の学習内容の確認をする。</p>	<p>資料を見せ、この使節派遣の目的や成果を思い出させる。また、憲法や各種の法律や裁判制度等の重要性にふれる。</p> <p>欧化政策の様子から、政府の政策が条約改正交渉に有利に働いていないことに気づかせる。</p> <p>条約改正は対等な外交関係の樹立であり、その成功にはさまざまな要因が関係していることに気づかせる。個人で考えられない場合は、周りの生徒と相談させる。</p> <p>条約改正の必要性とそれに取り組んだ人々の努力について考えることができる。 【社会的な思考・判断】</p>	<p>既「粘り強く交渉したから」「日本が強くなったから」</p> <p>既資料(プロジェクター) 岩倉使節団</p> <p>既資料(プロジェクター等) 条約改正交渉 鹿鳴館・鹿鳴館の舞踏会 鹿鳴館時代の風刺画 日本の秋 ピエール・ロチ</p> <p>既学習プリント</p>
	<p>(8) 「条約改正への道」の表を完成させる。</p> <p>(9) 自己評価を行う。</p>	<p>条約改正の過程と日本を取り巻く世界情勢を理解することができる。 【社会的事象についての知識・理解】</p>	<p>既学習プリント</p>
終末 10分			

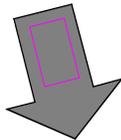
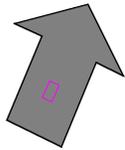
板書計画

条約改正

1886年 ノルマントン号事件

イギリス人船長 無罪

領事裁判権撤廃の要求が高まる



1858年 井伊直弼

1894年 陸奥宗光

日米修好通商条約

日英通商航海条約

アメリカ

イギリス

領事裁判権を認める → 撤廃

関税自主権がない → 一部回復

課

なぜ条約改正は成功したのか。

1879年 井上馨外相

予

- ・粘り強く交渉したから
- ・日本が強くなったから
- ・軍事力が強くなった

欧化政策

鹿鳴館

まとめ

・日本が近代的な国のしくみ（立憲政治）を整えたから

1. 日米修好通商条約
2. 岩倉使節団
3. ノルマントン号事件
4. 大日本帝国憲法
5. 帝国議会
6. 陸奥宗光
7. 日英通商航海条約
8. ロシア
9. イギリス
10. 領事裁判権

1871年 岩倉使節団

相手にされなかった

憲法などの未整備

日本の近代化が必要

・イギリスがアジアでのロシアの動きを警戒していたから